

馬よ

鈴木

漠

ともかくも馬を走らせたい

駆けさせねばならぬ玲瓏たる馬

または謹厳な木の馬を

みんなで藁の束になつて

わらわりわるわるわれ廻れ 笑う馬

夜の円蓋を支える柱のまわり

その盤上の戯れのなかにわれわれの
幻こそは醸されるかもしれぬ

馬よ迂回せよ

まだまだまだまだ曼陀羅の

婀娜たる世界に到るのは

汝 白茶けた玩具の馬

いすこより來り いすこへか去る

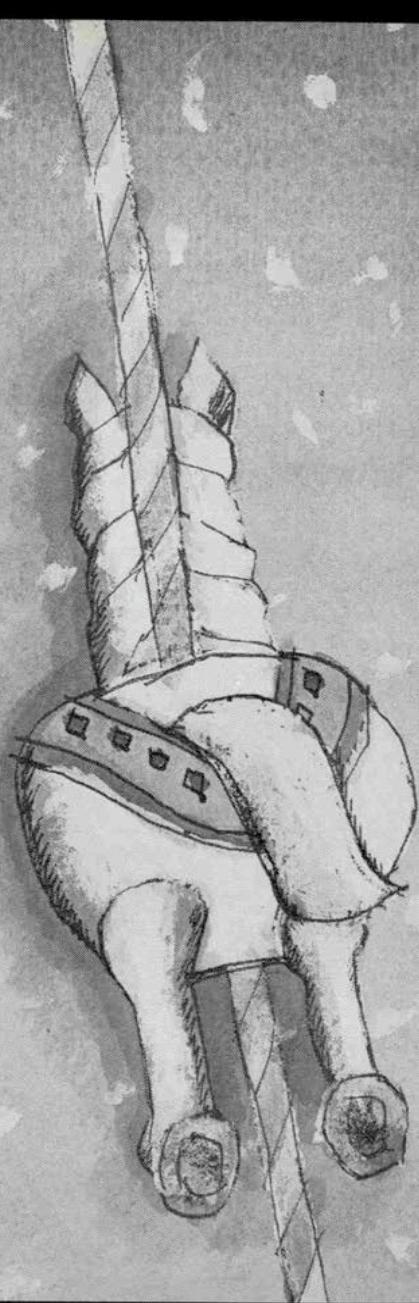
しらしら明るむありあけの

天を支える柱のめぐり

しらしりしるしるしれはしれ

走りされ無名の馬よ

背に不滅の騎士をのせて！



ラッシュ・駐車場B2

三宅 武

追いつかれそうで背骨が痛くなる
バックミラーをいくどものぞく

汗が冷たく流れる

遮断機がやつとあがる

無表情を装つてアクセルをふみ込む

へ待て／＼のかわりに

うやうやしく声を出す人形

いく万トンを支えるコンクリートの列柱
靴音……二人だ

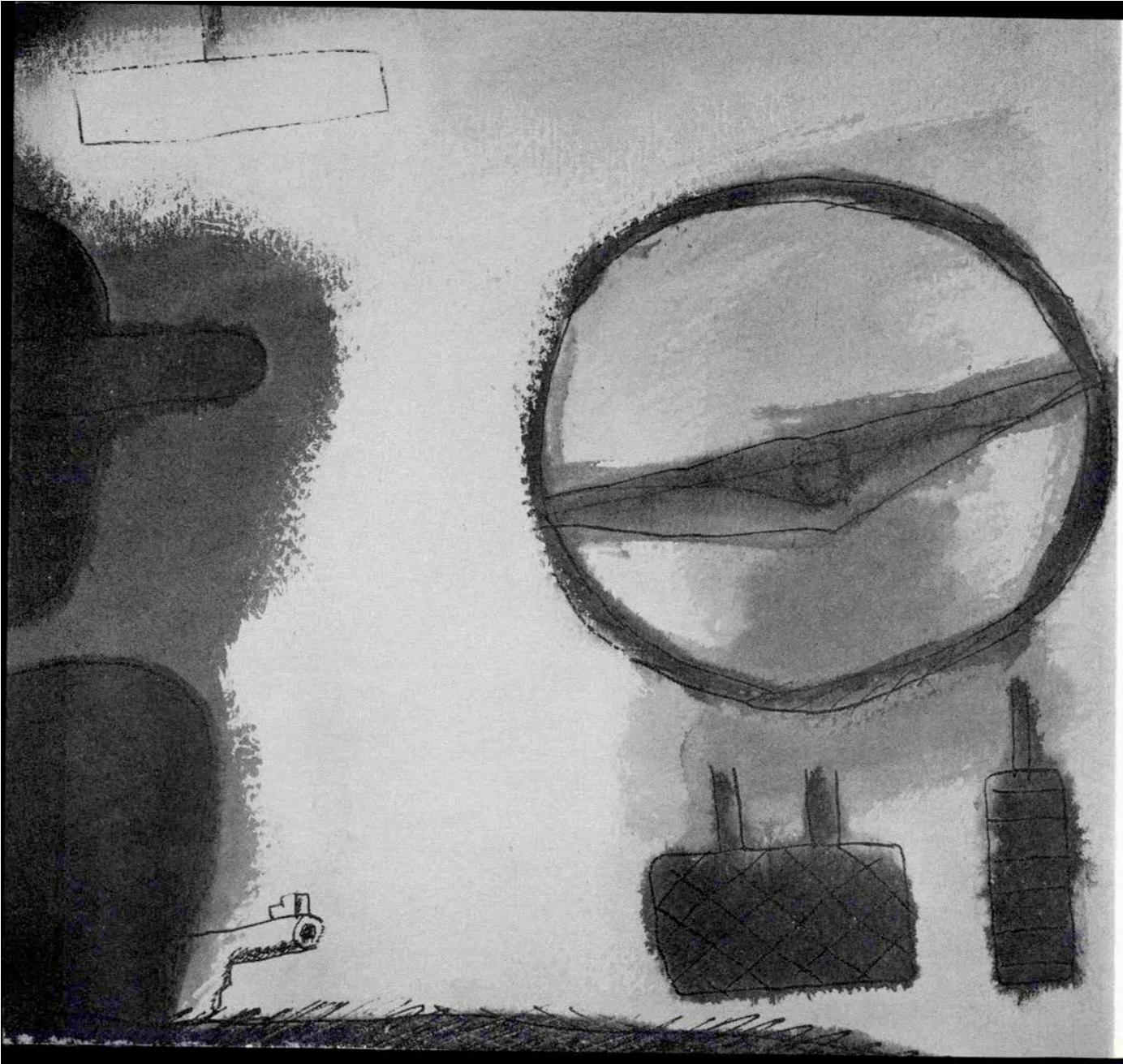
こぼれたオイルに足をすべらせる
肘をつく——立ちあがろうとする
柱のかげから

いきなりヘッドライトが向つてくる
体を転がして避ける

空転するタイヤが焦げる
かすかな煙が残る
全ての音がとだえる

銃声の連射がくるまで

あと何秒あるか



禁野橋の畔

伊勢田 史郎

おおきな柳の木の下で
女のひとが まつしろい手をさしのべていた
しだれた枝たちの葉が ざわめいていた
月のいろは銀
口笛の曲はかるやか に 去つていく
ながい ながい ひとつの影
おおきな柳の木の梢に
蛇をくわえて 白いフクロウが見おろしてい
た
水の面にさんざめくひかりの泡たち につ
つまれて
猫の川流れがくだつて いく
——おかあさん!
どこかで 子供の悲鳴が 閃いた
おおきな柳の枝たちの葉がおどつていた
風が
そのひとを鋼いろの塑像にかえた



褐色の実

中村 隆

白い花が醜く萎れると

十数本の青い花筒が

いつせいにふくらみはじめる

二つの季節になめされ

熱い風に搖さぶられながら

地上三十糧ほどのところで

捨てられた子猫の突き出た腹のような

あられもない姿で

どんどん太っていく

——ブドウなの

幼児が母親にたずねる

——トマトだね

通りすがりの老人がひとりでうなずく

誰も知らない夏の忘れ形見の

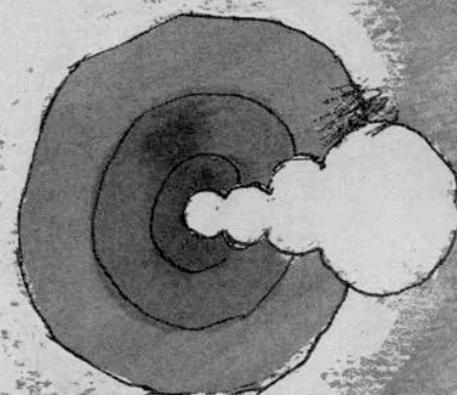
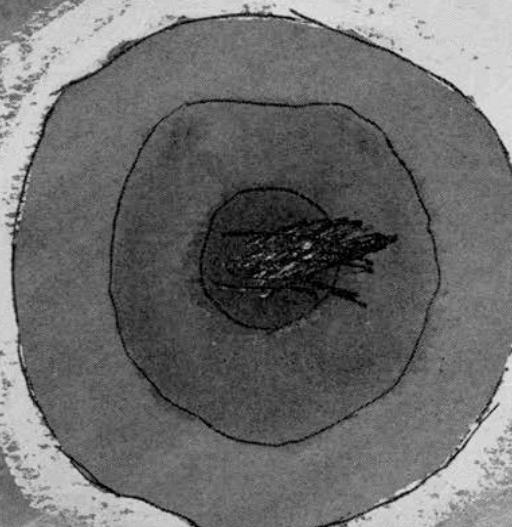
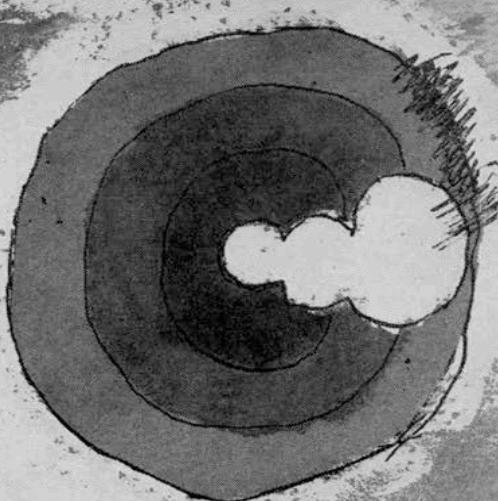
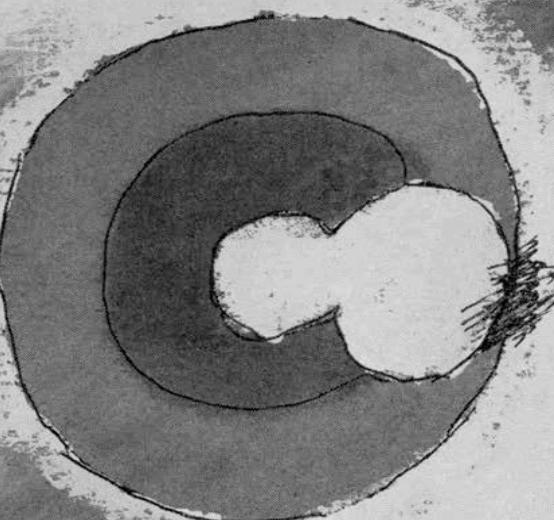
煮ても焼いても喰えぬこの艶やかな

褐色の実は一体なんだろう

三十糧ほど地上に墜ちて

根掘り葉掘り出生を問うには
少し間がある

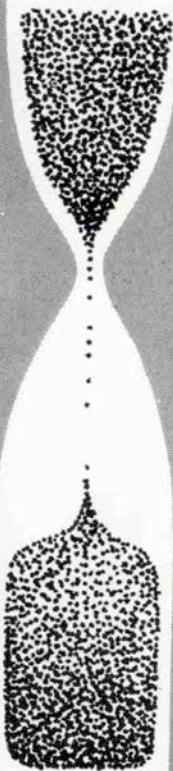
寒冷前線がゆっくり南下して
こわい雨を降らせるまでに



★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考
え
る



⑤

ハートのある ファッショング都市づくりを

□出席者

嶋田 勝次
（神戸大学工学部助教授）

笹山 幸俊
（神戸市都市計画局長）

★神戸らしい個性ある町づくり

永田 今、現在の町をどういうふうにファッショング都市らしくするかという担当が、神戸商工会議所ファッショング都市特別委員会のなかの街並分科会なんですが、いろんな意味で、もう少し町を美しくしようやないかということが目的です。それには何かキャラッチフレーズが要るのやないかということでシンボルロードを提案しました。"目玉"商品です。

花時計から神戸駅、新開地まで、それにタテの軸としてトア・ロードを考える。トア・ロードは北野町界隈のショッピングゾーンと結びつける地区だということで考えて行こうじゃないかということなんですね。

ファッショング都市づくりというと、ファッショング産業面での考え方と、もうひとつは、町をファッショング化するというか、町並みを整備するという両方の面をもつて

永田 良一郎
（神戸良介商店会社長、神商議ファッショング都市づくり特別委員会委員長）

加藤 末一
（コロンバン社長、トア・ロード中央商店街振興組合理事長）

菊水 啓輔
（菊水紹本店社長、神商議ファッショング都市づくり特別委員会委員長）

いると思うんですよ。簡単に神戸らしい町づくりだといつておりますけれど、それが薄れて来ているからそれを強調しようというのがひとつ大きな狙いでです。

加藤 私どもは高架から生田新道までの区域のことを考えているのですが、元町は刮目できるようなスケールで従前とはうつて変わった状態に変貌しました。三宮界隈もそうです。それに比べてトア・ロードはまったく取り残された状態でした。一昨年の暮にトア・ロードに直接門戸をもつている店舗百六十で法人格をもつた振興組合

を組織しましたが、創立総会では、舗装工事、それに関連して車道と歩道との間のファニチュアをどうするか、さらに、現在目につく夾杂物である電柱、あるいは、個々の店舗の必要に応じて建てられているアーケード、こういったものをどう整理して、どんな格好にもつて行くか、こういうことを課題にしました。

創立総会を開催してもう二年も経ちまして、いよいよ

機が熟してまいりました。近く実行案を提出してみなさ
んの承認を得たいと、ここまで蒸つめてまいりました。

今の私どもの歩道幅は三メートルしかありません。こ
れはこの今までいいのか、あるいは、広ければどんな問

題があるか、これを一年ほど前から問題にして来ました
が、やはり、商業地域でありますので歩道の幅を無理に
広くしても、今の交通事情が大きく変わらない限りは、
直接商売に影響するから、今すぐ歩道幅を広げるのは無
理だという結論に達しました。それでは現在の今までど
うするか、いわゆる有色歩道にする場合の材料に何を選
ぶかということですが、高架から上の地域と調和する状
態であつてほしい。いろいろと検討してみましたが、最
大公約数として浮かび上がつたのが、やはり古いレン
ガ。ちょっと焼きを良くして磨滅の少ない色合いのやや
固い感じの古いレンガを敷きつめてやつてみよう。それ
が、昔の南京街などのイメージにつながりはしないかと
考えています。

歩道と車道との間には、昔は街路灯がありました。こ
れが今はい状態ですが、レンガと同じように古い神戸
のイメージをもつた、しかも、ユニークな感じになるよ
うな街路灯をつくつてみたいと思っています。

トア・ロードの核になるもの、それとトア・ロードの
終点になる神戸外国俱楽部のところに従前のトアホテル
のようないの、終着点になるものがほしいですね。トア
・ロードを神戸の“顔”として考えています。

嶋田 これまでの都市づくりは、道路をつくる、緑をふ
やす、公園を配置する、というような量的な事業だった
と思いますが、美しさ、豊かさをその中に組み込んで行
くという質的な方向に向いて来ました。それぞれの地域
や商店街で個性ある町づくりの努力が起こっているので
すね。

★ まず、町を愛すること

菊水 神戸の町の魅力は、海であり山であり港であり、

そういうもののなかで、神戸らしい町づくり、ファッ
ショナブルな町といいますか、そういう町づくりをやつ
て行くことが外に対しての顔づくりですね。

神戸らしい町づくりとは、いわゆるクラシカルモダン
というものを基調にして、ストリートファニチュアとか
植木一本にしてもただ植えるだけじゃなく、どう植える
かという問題でもあらうし、まず、町を愛するという気
持ちをもたないといけない。それは、まず、清潔にする
ということ。特に商店街、ショッピングセンターの商人
が町を綺麗にしないといけない。だから私は、自分の店
の前の道路は、自分の店の中と同じだと思い、とにかく
毎日掃除をしてチリひとつ落ちていない。私は店の者に
いうのですが、車道の方からも見ると。人は向こうから
見ているわけです。側溝のゴミもなくす。そうしないと
ハートのある町づくりはできない。

行政にいろいろと考えてもらつたり、先生にストリー
トファニチュアをデザインしてつくつてもらおうとかい
うことでも大事だけれど、まず、町にあるものを自分
たちで綺麗に磨き上げて行くということがないと、いく
らいいものが出来てもダメじゃないかと思います。

永田 店の中から見ているだけではダメで、実際、車道
から見て、もう少し綺麗な町づくりを考えてもらわないと
といけませんね。

菊水 行政に、さあ、木を植えろ、花壇をつくれと、や
かましくいって、それを大事にするかといえば、放つた
らかにして、水もやらなければ手入れもしない。そし
て、行政が悪い、面倒を見ないと。そんな気ままな
ことをいってもダメですよ。

永田 極端にいえば、花壇の用地だけつくつて、木は植
えさせればいい。そういう努力は、町の人たちがすべき
ですよ。全部を行政におんぶするのはいかんですね。

嶋田 確かに町の魅力は、公的にきちんとする部分と個々で整備する部分があると思うんです。その公的なものと個人のものとの接点が、都市の景観で一番問題ですね。住宅地だったら堀とか溝とか家の前とか、商店街だったらストリートとショーウィンドウやら入口の前とか。その辺をソフトに大切にして行くべきですね。



嶋田 勝次さん



鎌山 幸俊さん

★美しい町で人を引きつける

鎌山 ファッション都市づくりをいいだして数年になりますね。その当時、神戸はファッションをつくるところなのか、売るところなのか、見せるところなのか、わか

らなかつたのですが、見せるところも必要なんで、それにはそれなりの背景が必要となります。そういうこといろいろと調査をしたりして来たのですが。

神戸の建物はちょうど建てかえの時期が来ているんですね。戦前の建物も建てかえ、戦後の建物もちょうど建てかえ。単純に建てかえて行ったのではおかしいのじやないか、同じ建てかえるのなら、もうちょっと勉強をし

て、ファッション都市といわれるのなら、そういう町をつくつて行かなければいけない。ミラノはつくるところだったのが、売るところになりつつある。よくいえば見せるところであつてほしいですね。パリなんか、いえば見せるところだと思いますが、できれば、神戸は三つ揃えてファッション都市にしたいなあということですね。

二、三年前から町づくり助成、お金と指導ですね。そういうことをうちの方で出して、まあ、お金もあるわけですが、それだけではうまく行かないで、もうちょっと他の方法をとろう。ある程度、条例化してハッキリ位置づけをして、お金を出すものは出す、協力してもらおうならハッキリしていただき、こういうようなことで大分時間をかけて議会で景観条例を決めてもらいました。

神戸の町というのは、感覚的に神戸らしいのはこれだというのはないと思いますが、そういう感覚はよその土地の人が案外感じていますね。ハッキリしないけれど何か感じている。ところが、神戸に来られて、今のところ部分的に良いところはありますけれど、全体として、三宮の駅を下りられてもあまりいい感じがしないですね。町を綺麗にするということを最初から考えて、大阪に対抗しようではないかというのがわが方の考え方です。来ていただける人の好みに合うような神戸らしい綺麗な町づくりと、ファッションを一緒にした町をつくつて行こうというのが現在の考え方なんですね。

具体的には差し当たりさわろうとしているのが三宮駅周辺ですね。これは表玄関になりますから、それに見合うような町づくりをやろうということです。それと、北野なりトア・ロードなりフラワー・ロード、元町、神戸駅へ向かう、そういう軸がありますので、それをひとつづくりと、ファッションを一緒にした町をつくつて行こう

永田 確かに三宮駅を下りてもファッション都市というイメージはありませんね。それと私鉄の駅、阪急なり阪神なりが綺麗にしてほしいですね。阪急三宮駅、特に阪神元町駅は何とかしてほしいですね。

しのように次々と美しい都市づくり行政の一環として、あらたに都市景観条例がつくられましたね。

★創造して行く部分の強い “景観条例”



永田良一郎さん



加藤末一さん



菊水啓輔さん

鳴田 神戸は行政主導型で都市を形造って来たといえるかもしれません、都市の骨組は市民参加も含めて、きちんと決断されなければならない。ただこれまでの神戸らしいふんいきづくりにはあまりデザインあふれたものではなかつた。神戸は海と山の自然に甘え、ファッショ

ン都市づくりは物販からアプローチしているように見える。これからはほんものの指向を明確にしたものを率先して公共のものからつくついていただきたい。庁舎、図書館、駅舎などについては、特に後世に残る都市中心的存在となるものを期待したいですね。それから局長さんのお話

鳴田 数年前から神戸市の都市計画局の方々と私共の研究室のスタッフと一緒に景観について研究を進めてきました。その地形や町並みから様々な都市景観があり、それぞれに対応して、保全する景観と創造して行く景観、また遠くから眺める広域的遠望的なものと町の中のちっぽけなもののデザインを大切にすることまで広汎に展開させないといけない。それらの検討の積み重ねの凝縮された結果が、条例の中に盛り込まれているのではないか

と思つております。

永田 景観条例は京都がやつてゐるような保護条例じゃないんですね。創造して行く部分が強い。それは、自分たちの町を大事にするということに尽くるんじゃないですか。自分たちが住んで商売をしている町をお互いにもつと大事にして美しくして行こうという気持ちを行政が何らかの形でお手伝いするというぐらいに思ついたらよろしいんでしょう。それが神戸の場合、これまで行政主導が強過ぎた。自分たちで神戸らしい町づくりをして行くという気持ちをみながもつて、ハードな面とソフトな面がうまくジョイントできれば素晴らしいものになる。

菊水 条例をつくつても本当にやつてやろうというハートがないといいものができないですね。ファンション都市づくりは市民運動じやなければいけないですからね。そういう意味では、マスコミが市民に訴えないといけない。マスコミの役割は大きいと思いますよ。

加藤 この条例には規制的な要素、こういう建物を建ててはいけないとか、そういうことはあるんですか。

笹山 ないですね。ただ、規則で、広告塔の高さをこちらにしてもううとか、地域によつて大分変わると思つうんです。また、地域によつて変えようと思つているんです。同じ建てるのならこうしてほしんなあということは助言、指導したいと思つています。

お隣りとお隣りは協力しないといけないということは書いてあるんです。これは変わつてゐるんです。普通はやれないことですね。

永田 商店街を例にとりましたら、昔は店の二階とかに住んでいましたね。コミュニケーションも自ずからできますね。それが今はみな通いでしよう。そうなつて来る

と、隣同士がお互いに話し合うことを強制的にでもやつておかないコミュニケーションがなくなつてしまつ。加藤 条例の細かい内容をお聞きしたいですね。

嶋田 この中では、市長の責任だとか、市民の責任だとか、事業者の責任だとかが最初に書いてありまして、そ

のあと、都市景観を形成する地域と都市景観を大事にしようじゃないかという地域を決めまして、その地域はまだハッキリと線引きはされてないと思いますが、その中では基準をつくつて、こういうふうなものにしていただきたいという指導、助言をしようじゃないかということがあがつてしたり、北野町だとか、酒倉地域だとか、そういうところは伝統的な建築物群がある。その文化財的な立場から町並み保存をしようじゃないか、また、市街地の中では、目立つ建物だとか、大規模な工作物だとか、そういうものを新しくつくるについては、まず届け出をして下さい、お互いに話し合いをしようじゃないですかということとか、あと、都市の中でも“顔”になるところがありますから、たとえばフラワーロードとかトア・ロードとか元町とか、そういうところについては、美観地区として美しい町づくりを考えよう。また、地域によつては地区整備計画をつくつたり、景観マスタープランをつくつて、積極的に取り組みたい。そういうことがあがつていています。

笹山 区域を決めて届け出て下さいというのに届け出ないときは一応罰金刑が三万円、北野などの伝建地区については五万円、これは法律で一応そうなつていてます。

嶋田 今度の条例は非常にユニークですね。ユニークなというのは憲章的な意味と、文化財保護法という教育委員会サインのものと、都市計画の美観地区と、そういうものを全部一緒に一本化しようという条例ですからね。

永田 そのかわり内容としては概略的なくくり方しか出来ないということはありますね。

嶋田 やはり都市を全般的にレベルアップして行くことと共に、ひとりひとりが個々に努力すること、それぞれの地域や街路で個性を高めることが平行して行くべきでしょうね、そのために、各商店街や各地区で特色ある計画をまとめられるとありがたいですね。そして自らの町は自らでつくるんだという積極的姿勢こそよい町をつくるんでしょうね。 (神戸国際ホテルにて)

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市葺合区旗塚通6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川上勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲岡必三
神戸市生田区三宮町1丁目17-4
センター・プラザ東館8F
TEL (078) 392-2101

㈱ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株

取締役社長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株

取締役社長 小泉進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル3F
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上6社の提供によるものです。

私と家具

入選作発表 田辺 聖子 ▲作家▽
審査員 足立 卷一 ▲作家▽

私と家具

文机のこと

中学三年の時だった。初めて「徒

然草」を勉強したが、その教科書に小さなさし絵がついていた。草葺きの庵の濡れ縁を前に、兼好法師は筆をにはさみ、文机に頬杖をついて庭のあたりを見やつている。昔の文筆家はこういう机で、こんなふうにながめながら物を書くのだな、と感心したものだった。

その頃はまだ、夏目漱石にいたく心酔していた時期でもあった。

愛読していた全集本には、扉に写

真がついていた。その一枚に、紬かなかにかの着物を着た漱石が、原稿用紙の散らばった文机の上に組

んだ手をのせて寄りかかっている

のがあった。なるほど、現代の作

家もこんな机に寄つて小説を書く

のだなと感心するのと同時に、こ

の文机というものが、文学者のシンボルのように思えてしまつたの



山口 毅
神戸市須磨区在住
高校教師

だつた。

兼好の文机は、両端がやや上に

反った経机のような形のものだつた。漱石のは、紫檀の座敷テーブ

ルを小ぶりにしたようなものだつた。けれども、中学生や高校生の

分際でこんな物の持てるはずもな

い。いつかひとかどの文筆家にな

ることを夢には見つづ、やがて受

験勉強に追われて文机のことなど

忘れたまま大学の文学部へ進んだ

のだった。

下宿の不便を忍んで、東京での

学生生活を終えると、今度は山の

彼方の高等学校に教師として赴

任。二年して月給が三万五千円にな

なったの機に結婚することとし

た。そこで、当時は花も恥じらう乙女であった私のかみさんをつれて

訪れたのが、永沢町の江戸屋福井。

父が、先代の社長と懇意にしてい

た縁で、婚礼家具をそろえに行つたのである。その江戸屋さんの家具展示場の奥の方に、有つた有つた、小ちんまりと三つ引き出しのついた文机が。

それは、両端が少し反り上つた兼好型で、しかも、紫檀で仕上げたところは漱石式ときているから、

フムと一目で気に入ったのはよかつたのだが、我が乏しい予算では、

食器棚や食卓セットがやつと。親

に余分な負担をかけたくはなし、

まさか婚約者に、私の使う物まで

持つて来させるのも嫌だし、その

日は、いいないいな、と言ひなが

ら帰館。ところが数日を経ずして、

姉から、一生に一度のことゆえ豪

勢なお祝いをしたいとの申し出があつた。これ幸いと一も二もなく

例の文机をねだつたのであつた。

新居といえばロマンチックだ

が、田舎町の街はずれにある木造

平家の二軒長屋で、雨は漏り放題、

梁上の君子は天井で運動会を催す

という借家住まい。とはいえ、他

の家具と一緒に江戸屋さんが大切に届けてくれた件の文机を濡れ縁の前に置き、筆を指にはさんで頬杖をついて、軒先まで枝を伸ばしている松林を眺めてみると、かなり兼好法師に近い雰囲気であった。ウールの着物で腕を組んで机に寄つてみれば、漱石のムードも遠からじとも思えた。

その学校には、結局六年勤務して神戸の学校へ転勤となつた。故郷に帰る喜びに、畳包がおろそかになつたのか、荷をほどいて見ると、何と文机の角に、何かがあつて、五センチばかりそいだよう

な底がついていた。あなやと思えどおろし、いささかがつかりもしたが、右の引き出しをしめれば、中と左とがスッと出て来るといった造りの良さは變りなく、一か所ぐらい底があつた方が人生の記録のように思えて、今もそのまま使つていている。

ただ、最近はいたずらざかりの子供を三人かかえ、兼好法師の面影も、夏目漱石のムードも慕いようがなく、もっぱら、生活に疲れなつたオヤジサンの居眠りの支えとなりはつてしまつた文机の姿。まさに遺憾と言わざるを得ない。

私と家具

□入選

私が、生まれて初めて買った家具、それは水屋であつた。事情があつて私は、一人アパートを借り、生活しなければならなくななり、初めての給料をもらうと同時に、その生活は始まつた。もう十一年も昔の話である。その当時、私が手にした給料は一万八千円、その水屋が二万五千円、今思えば、この水屋を買う動機は、水屋の持つ温かい生活がほしかつたのに違ひない。この水屋を見付けるのに、いろいろと歩いた。私は元来、物と用をなすべきだけではなく、その物と生活を共にする以上、慈し



芦屋市在住

藤田富子

みを覚える様なもでなければならぬと思つ。それを造つた人の心が伝わつて来る様な、そんな物が好きである。そこには、失ないかけている心と心の触れ合いの様な温もりがある。これが欲しい!! と見付けた水屋は初給料を叩いても手が出ない高価なものだつた。その水屋は自分の住んでいたアパートの近くの家具屋にあつた。骨を折つて搜した満足感があつた。と言つても手に入れたのではなく、見付けただけの話である。今

方法さえ、まだ一般化していなかつたし、十九の小娘には、「お金がありませんので待つて下さい!」とは恥かしい気持で言えなかつた。七月の賞与が出る迄、売れずにあることを祈るのが精一杯だった。会社の帰り道、毎月、店主や店員に気付かれない様、そおつと覗いては水屋に会うのである。今日も売れずに、そこにある水屋を見つては、一人ほつとしてアパートに帰るのです。西日の入る部屋には家具らしい物と言えば、本棚と机兼、食卓用の台が一つ、あの水屋を買つたら、ここに置こうか?、いや窓の近くは日が当ると、たかが六畳一間、買つてもいの水屋の心配を毎日していた。そして、やつと七月を迎えた。小さな会社ゆえ、ボーナス日も決まつていな。社員の噂で今日か、明日かと、ソワソワ、やつと寸志と書いた賞与を手にした。僅かばかりの給料から、取つておいた金と寸志を持つて恋人(水屋さん)に会いにゆくと、店は模様替えを、したらしく、あの水屋は見当らない。もしや売れたのでは?!、そんな不安が頭を掠めた。泥棒に入られて、宝を持ってゆかれた様な、そんな思いで、目を皿の様にして搜してみたが見当らない。ここ一週間ばかり残業で帰りにはもう店は閉つた。やはり売れたんだ果然として目頭が熱くなつた。希望という

経済ポケット ジャーナル



★KOBE産業展

盛況のうちに閉幕

神戸商工会議所百周年記念事業として去る九月十六日十九日、神戸サンボーホテル



あいさつするのは吉川進実行委員長

本の良さを再確認した。また、吉川進同展実行委員長が「百周年事業のトップをきつた同展に引き続いだ他の行事もぜひ成功を」とあいさつ。百周年記念式典にむけての意気が上った。

★ボーアイ博にむけて

国鉄三ノ宮駅が近代化石油ショック、長期不況のために中断していた国鉄三ノ宮駅の改造計画がようやくまとまった。

五十六年三月に完成予定のこの駅ビルは、国鉄、神戸市、地元十一企業の共同



生まれ変わる国鉄三ノ宮駅付近

★KOBEオフィスレディ★



三砂 多香子さん (26)

＜勤民主音楽協会神戸サービスセンター勤務＞
六甲山系の花々をつんでは押し花に。押し花が趣味とはとっても女の子らしく、彼女の人生にびったり。那智わたるのファンだったことから高校では演劇部。今は芝居を観るヒマはないけど、仕事がら音楽はたっぷり。ジャズはよくわからないけど、それ以外は何でも好きで聞く。男性は……渥美清演じるあの寅さんみたいに、心底からやさしさのあふれてる……そんな人がいいんですって。 ＜市立西宮高校卒＞

神戸市では、昭和四十八年のファッショントリ市宣言以来、神戸の特色を生かした生活文化産業をファッショントリ市として、振興を図っているが、このたび、神

ポートアーランド線三ノ宮駅が建設されて連絡、さらに五十七年には神戸市営地下鉄ともつながり、三ノ宮が近代化のターミナルに生まれ変わることとなる。

★神戸市がハンドブック

「VIEW」を発行

神戸市では、昭和四十八年のファッショントリ市宣言以来、神戸の特色を生かした生活文化産業をファッショントリ市として、振興を図っているが、このたび、神

によくまとめられている。ファッショントリ市宣言するだけあって、市当局の意気込みが感じられる小冊子である。問い合わせ：神戸市経



「VIEW」

ルビル株（不西真一社長）が地上十一階、地下二階のビルを建設、運営して形をみるが、キーテナントとして阪急百貨店が進出（地下一、二階）、六階以上は二百五十室、三百人収容のホテルとなる。

またビル東隣は、同時に開通する新交通システム、ポートアーランド線三ノ宮駅が建設されて連絡、さらに五十七年には神戸市営地下鉄ともつながり、三ノ宮が近代化のターミナルに生まれ変わることとなる。

この三十六頁の小冊子、婦人・子供服、紳士服、家具、靴、洋菓子、真珠、コーヒー・紅茶、日本酒など

神戸の産業をわかりやすくかつ詳しく紹介したものでファッショントリ市神戸のハンドブックとして利用する

の業界の状況などを中心に神戸の産業をわかりやすくかつ詳しく紹介したものでファッショントリ市神戸のハンドブックとして利用する

戸市経済局から「VIEW」

331 8 1 1